滋賀県文化情報『えんむすび』

●後援名義の使用申請・報告がインターネットでできます！

文化芸術関連行事を開催される際、一定の条件を満たす場合、後援を行っています。今まで書類の郵送のみで受け付けていた「後援の申請・報告」ですが、このたび滋賀県公式受付サイト『しがネット受付サービス』での申請・報告が可能になりました。データで作成した書類を印刷、郵送しなければならなかった今までとは違い、書類のデータが揃えばそのままネットで申請・報告ができます。1月から始まった新しい申請・報告方法です。後援名義の申請・報告をされる際は、是非『しがネット受付サービス』を御利用ください！

※詳しくは【しがネット　後援名義】で検索してください。滋賀県ホームページ

(http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkageizyutsu/12286.html)

●考古学に親しむイベントを開催します！

滋賀県埋蔵文化財センター（びわこ文化公園内）では、今年5月の連休中に、考古学に親しむイベントを開催予定です！　昨年は、滋賀県内で出土した土器やハニワ、瓦を屋外に展示し、実際に触ってみたり、間近で観察したりして、絵を描いてもらうイベント「Myぶんドキドキ観察会」を開催し、たくさんの方が参加してくださいました。今回も、滋賀県の歴史をもっと身近に感じることができるイベントを企画しています。大人から子供まで、どなたでもご参加いただけます。詳細は追って広報・ホームページ等でお知らせいたします。ぜひお越しください！

前年度の様子

滋賀県埋蔵文化財センター

(http://www.shiga-mc.sakura.ne.jp)

●びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！

滋賀県内の全ての子どもたちが舞台芸術に直接触れる機会を創出することを目指し、平成23年度より学校向け鑑賞事業として行ってきたオーケストラ公演を今年初めて一般公開します。

大編成のオーケストラ、日本を代表する一流の指揮者、そしてびわ湖ホール声楽アンサンブルの歌声を、日本有数の音響効果を誇るびわ湖ホール大ホールで堪能していただけます。お芝居仕立ての司会、巨大スクリーンへの映像の投影など、びわ湖ホールでしか味わえない「音楽会」です。

◇日時　2020年6月13日(土)10時半／14時

◇会場　滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール　大ホール

◇出演　指揮：高関 健、管弦楽：京都市交響楽団、司会・独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル、演出・構成：中村敬一

◇プログラム　G・ビゼー「ファランドール」、J・ブラームス「ハンガリー舞曲第1番」、A・ドヴォルザーク「スラヴ舞曲第15番」、J・ウィリアムズ「スター・ウォーズよりメインテーマ」、G・プッチーニ「誰も寝てはならぬ」（オペラ『トゥーランドット』より）、マスカーニ：復活祭の合唱（オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』より）、村井邦彦「翼をください」、M・ムソルグスキー「展覧会の絵」よりバーバ・ヤーガ～キエフの大門

◇料金

大人　1500円、

子ども（小学生～中学生）　500円

※未就学児は入場できません。託児サービスをご利用ください。

©栗山主税

Made in Shiga
- 身近に感じる「美」の世界

県内で実施されている「美の滋賀」づくりに関する取り組みを紹介します。

●「美の滋賀」づくり

滋賀県文化スポーツ部文化芸術振興課

四季折々の趣を見せる山々と日本一の琵琶湖が奏でる豊かな自然のシンフォニー。滋賀県ではこうした穏やかな環境の中で、自然と共生する文化が育まれてきました。

滋賀の象徴ともいえる琵琶湖や里山に見られる自然や環境の美、整然とした棚田のあぜ道や琵琶湖のえり、大地からの湧き水をたたえるカバタ、伝統工芸に見られる生活の美意識、信仰と深く結びつく中で大切に守られてきた神と仏の美など、地域の暮らしに根付き、長い時間をかけて築き上げられた滋賀ならではの日常の美は素晴らしいものがたくさんあります。それだけではなく、びわ湖ホールをはじめとした先端的な芸術拠点を有し、滋賀の福祉の歴史から生まれ育まれてきたアール・ブリュットを世界の舞台に送り出すなど、新しい伝統がつくられ続けています。

平成30年度「美の滋賀BACKSTORY」の様子

●「美の滋賀」づくりとは――

文化は一人ひとりの豊かな心を育むとともに、人と人が互いに理解し尊重し合う基盤となるなど、地域を活気づけてくれるものです。人と人との絆や心の豊かさがより一層求められるようになっている今、文化の果たす役割は、これまで以上に重みを増してきています。

県内各地で開催されている取り組みの様子

滋賀県では、多くの県民が滋賀の美の魅力を知り、楽しみ、そのつながりの中で美が生み出され、育まれ、守られることにより、県民の誇りとして社会や日常の暮らしに美が満ち溢れている、そのような地域の姿（「美の滋賀」）をつくり、豊かさを実感できる滋賀の実現を目指しています。

●「美の滋賀」プロジェクト推進事業

県内では、伝統的建造物群保存地区にある旧町家を活用した芸術祭や、日本の原風景とも言える美しい景観が残る集落での野外写真展、伝統行事や生活記録が収められた映像を上映し、古来より引き継がれてきた地域性を再確認する上映会など、様々な取組が展開されています。

滋賀県では、こうした取組を支援するために、開催経費の補助や取組相互をつなぎ合わせるコーディネート、美の滋賀を知ってもらうイベントの開催などを行っています。

補助事業の募集のお知らせやイベントの告知などは、滋賀県HPで随時公開していますので、ぜひご覧ください。

http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkageizyutsu/307241.html

（滋賀県ＨＰ）

アートのみかた
―滋賀県立近代美術館所蔵作品をもとに―

●「リアルな虎」を描く斬新さ

滋賀県立近代美術館　主任学芸員　山口真有香

一頭の虎がやや角度をつけて座り、こちらをじっと見据えています。堂々とした躯体、鋭い眼光、牙が覗く口元、細かな毛並みや髭などは真に迫り、今にも動き出しそうな迫力です。

本作を描いた岸竹堂（1826～97）は彦根出身の画家です。京都で鳥や虎など動物を描くことを得意とした岸派に入門して頭角をあらわし、ついには四代目総帥として岸派を継ぐ立場となりました。

竹堂も虎の絵を得意としましたが、明治時代の始め頃までは、従来の絵手本や毛皮などを参考にした伝統的なスタイルでした。ところが明治20年（1887）、イタリアのチャリネ曲馬団が京都公演を行った時期を境に、本作のように虎の描写が写実的になります。恐らくサーカスで実物の虎を見たことが契機になったと考えられますが、まるで本物のような「リアルな虎」は、当時は非常に斬新な表現でした。1893年には、本作とほぼ同じ構図の「虎図」（東京国立博物館蔵）がシカゴ万国博覧会に出品されました。

岸竹堂「虎図」　絹本著色　明治24（1891）年
159.3×71.6cm　滋賀県立近代美術館蔵

オペラ日和

●パレルモ・マッシモ劇場 イタリア・オペラの魅力を満載!!

びわ湖ホール事業部　チーフプロデューサー
舘脇　昭

びわ湖ホールでは、今年も魅力的なオペラ公演を多数ご用意しています。6月にイタリアのシチリア島にある、パレルモ・マッシモ劇場の公演を行います。イタリアで最も美しい劇場の一つとされる歴史ある名門劇場です。2007年と17年の2度来日しており、2回ともびわ湖ホールに来ています。17年の《椿姫》公演では、ジェルモンを演じたレオ・ヌッチの歌唱があまりにも圧倒的で、ファンの間では歴史的な名演として語り継がれています。

今回は、ヴェルディの出世作《ナブッコ》を上演します。ミラノ・スカラ座の初演の年(1842年)に、60回以上も上演されるという大成功を収めた作品で、バビロニアの捕虜となったヘブライ人たちが祖国を思って歌う合唱曲「行け我が想いよ、黄金の翼に乗って」はとりわけ有名です。初演当時、外国の支配下にあったイタリアの人々の心情と重なり、「第二の国歌」と言われるほど人々に愛されました。

今回の公演では、難役アビガイッレに、この役を歌わせたら当代随一とされるマリア・グレギーナ。題名役には、ヌッチに続くイタリアの正統を継承するバリトン、アルベルト・ガザーレ。また世界に名を轟かせたメゾ・ソプラノのヴェッセリーナ・カサロヴァをはじめ、世界第一級の歌手たちが集結します。指揮は、24歳でミラノ・スカラ座に彗星のごとくデビュー、今や、イタリア・オペラ界を牽引する若き巨匠、アンドレア・バッティストーニが務めます。イタリア・オペラの魅力に溢れた公演をどうぞお見逃しなく!!

◁アビガイッレ：マリア・グレギーナ

ナブッコ：アルベルト・ガザーレ▷

▷指揮：アンドレア・バッティストーニ

●豆知識

ヴェルディは、オペラ王と称されるイタリアを代表する作曲家です。病気のため妻と子を次々と亡くし、28歳の時に失意のどん底で発表した第3作目の《ナブッコ》が大ヒット、イタリア国民の独立運動の機運を高めました。79歳で最後に作った《ファルスタッフ》にいたるまで、《リゴレット》、《イル・トロヴァトーレ》、《椿姫》、《アイーダ》など、生涯に26ものオペラを作曲。その殆どの作品が今も世界中の歌劇場で上演されています。彼の死後、行われた壮大な国葬には、数十万人もの人が集まったと言われています。1962年から約20年間、イタリアの紙幣に肖像が採用されており、国民から広く愛されていたことが伺えます。

ヴェルディ作曲　オペラ ≪ナブッコ≫

全4幕 イタリア語上演・日本語字幕付

日　時　6月27日(土)　開演15:00
会　場　びわ湖ホール大ホール
指　揮　アンドレア・バッティストーニ
出　演　ナブッコ：アルベルト・ガザーレ
アビガイッレ：マリア・グレギーナ
フェネーナ：ヴェッセリーナ・カサロヴァ
ほか
管弦楽・合唱
パレルモ・マッシモ劇場管弦楽団・合唱団
チケット　S席32,000円～U24席4,000円
(全席指定／チケット好評発売中))